

平成27年1月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

「八戸レポート 平成27年1月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

さて、市では、昨年12月に2014年の十大ニュースを発表しました。

《2014年 八戸市十大ニュース》

1. 天皇、皇后両陛下が八戸市をご視察
2. 種差海岸インフォメーションセンター・休憩所がオープン
3. 大雪で市民生活に影響、施設にも被害
4. 八戸南環状道路が全線開通
5. 八戸市民病院の周産期センター新病棟が稼働
6. 八戸市が2016年度内の中核市移行を表明
7. 伊調馨選手・レスリング女子世界選手権で9度目の優勝
8. 八戸三社大祭が「山・鉾(ほこ)・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産候補に
9. 青森・岩手・秋田の3県でドクターヘリの広域連携が本格スタート
10. 「文化芸術創造都市」で八戸市が県内初の文化庁長官表彰

1位には9月の天皇、皇后両陛下のご視察が選ばれました。本年は、いよいよ4月に八戸LNG輸入ターミナルが竣工、稼働予定です。産業面のみならず観光や文化など様々な側面で、昨年以上に明るいニュースがありますことを願っております。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 /FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 1月号 レポート

平成26年12月の八戸市内での出来事や、八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項目
1	屋内スケート場の基本設計案公表 ～世界最高水準のスケート場へ～
2	種差遊覧バス「うみねこ号」冬季も休日限定で運行
3	八戸市中心街の歩行者通行量 2年ぶりに増

【産業】

No.	項目
4	河原木地区にバイオマス発電所建設へ 鉄道林の間伐材を燃料に使用
5	ロシア千島海域での操業 来年から撤退 ～姿消す千島赤物～
6	2014八戸港水揚げ 数量全国4位

【地域】

No.	項目
7	八戸中心街でサルの目撃相次ぐ
8	「刺し身用冷凍サバ」の商品化を考える研究会設立
9	～和食の魅力見直そう～ 市内14小学校で特別給食
10	「はちのへ「ちきゅう」情報館」開館7周年記念式典開催
11	「はっち」プロジェクトでライトアップ
12	JR本八戸駅舎改修へ 町屋をイメージして一新
13	八戸LNGターミナル披露 市民見学会に150人
14	旧レック・旧マルマツビル解体 中心街の再開発着々
15	八戸屋形船 新産業都市指定50周年で新コース運航

【文化・スポーツ】

No.	項目
16	即席麺・小学生レシビコンクール 城北小の西山さんが審査員特別賞受賞！
17	東北太鼓ジュニアコンクール大会 「あそびっ鼓組「遊」(八戸市)が優勝！
18	第1回全国丼グランプリ! みなと食堂の「ヒラメの漬け丼」金賞！
19	歌人梅内美華子さん 盲・聾学校でワークショップ ～短歌の面白さ伝授～
20	八戸舞台の映画「ライアの祈り」都内で完成記者会見
21	「ライアの祈り」ロケ地マップなど作製 誘客本格化へ
22	新「八戸ラーメン」お披露目
23	「施工現場写真コンテスト」橋本さん(みちのく庭園)が金賞！

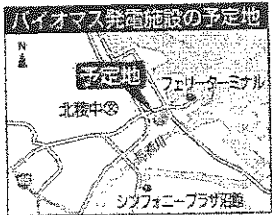
【県内】

No.	項目
24	「はしかみ蕎麦と岳 満喫バスパック」販売開始
25	種差海岸に関するアンケート調査 ～期待するのは海鮮料理～

【 行政 】

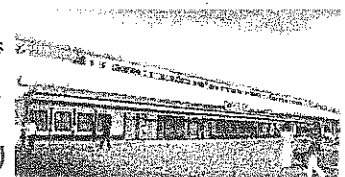
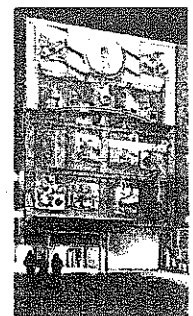
No.	レポート
1	<p>屋内スケート場の基本設計案公表 ～世界最高水準のスケート場へ～</p> <p>八戸市は、長根公園に建設する屋内スケート場の基本設計案を公表した。氷の質や空調、照明など設備面で世界最高水準の競技環境を目指すほか、市民の交流拠点や、防災拠点の機能を持つ施設とする。完成すれば、スピードスケート国際大会が開催できる国内3番目の施設になる。</p>
2	<p>種差遊覧バス「うみねこ号」冬季も休日限定で運行</p> <p>種差海岸を遊覧するワンコインバス「うみねこ号」について、八戸市は冬季間も休日限定で運行すると発表した。このバスは鮫駅一種差海岸駅間を結び、料金は大人100円、子ども50円。これまでの運行期間は4月～11月で、冬季は休んでいたが、通年観光の拠点となるインフォメーションセンターがオープンし、散策客の増加を受けて地元関係者から冬季の運行を求める声が上がっていた。12月10日から今年3月29日まで、土、日、祝日に1日6便を運行する。</p>
3	<p>八戸市中心街の歩行者通行量 2年ぶりに増</p> <p>八戸商工会議所が、中心街の2014年歩行者通行量の調査結果をまとめた。10月5、16日の総通行量は11万4938人で、12万人を超えた2012年よりは少なかったが、15万人を割り込んでいる過去7年間の中では2番目に多い結果となった。時間帯で見ると、平日は午後3時台を除く全ての時間帯で増加。特に午前9時～午後3時で前年を14.3%上回り、平日昼間の来街者は増えつつある。同商議所は「減少に歯止めがかかりつつある」と見ている。</p>

【 産 業 】

No.	レポート
4	<p>河原木地区にバイオマス発電所建設へ 鉄道林の間伐材を燃料に使用</p> <p>住友林業と住友大阪セメント、JR東日本は12月2日、河原木地区に木質バイオマス発電所を建設すると発表した。発電出力は1万2千キロワットで、線路沿いに植えた「鉄道林」の間伐材を燃料に使うのが特徴。年間発電量は約8500万キロワット時で、一般家庭1万7千世帯分の電力を賅える。建設場所は八太郎大橋たもとに近い私有地約2万平方メートルとなる。2015年6月に着工し、2017年12月に運転開始の予定。</p> 
5	<p>ロシア千島海域での操業 来年から撤退 ～姿消す千島赤物～</p> <p>八戸港所属の中型底引き網船によるロシア千島海域での操業について、今年入漁していた全6隻が来年から、同海域への出漁を取りやめる方針を固めたことが分かった。各船は燃油や資材の価格高騰で経費が増大する一方、それを補う魚価、漁獲量となっていないためとしている。毎年お盆や正月向けに取引されてきたキンキンやメヌケなど赤物を含む“千島物”は、八戸港から姿を消すことになった。</p>
6	<p>2014八戸港水揚げ 数量全国4位</p> <p>2014年の八戸港の水揚げ実績は、数量12万530トン(前年比24%増)、金額は229億6933万円(17%増)で、ともに前年を大きく上回った。大中型巻き網によるサバが回復し、中型底引き網のイカも好調だったことから、数量は59年ぶりに10万トンを割った前年の9万7591トンから増大。近年落ち込みが続いていた金額も、3年ぶりに200億円台に回復した。全国主要魚市場ランキングに(暫定)よると、数量は4位で前年の7位から上昇、金額は一つ上がり6位だった。</p>

【 地 域 】

No.	レポート
7	<p>八戸中心街でサルの目撃相次ぐ</p> <p>12月5日、八戸市中心街でサルの目撃情報が相次いだ。朝から八太郎地区に現れ、馬淵川を渡ったとみられ、その後、中心街の市庁周辺を走り回り、電線伝いに近くの長者山に入りこんだ。その後も中心街から離れた市民病院周辺などで目撃情報は続いた。目撃した市民は「こんな街中で」と驚いていた。</p>
8	<p>“刺し身用冷凍サバ”の商品化を考える研究会設立</p> <p>青森県産業技術センター食品総合研究所の呼び掛けで、市内の漁業者や加工、飲食業者らが集まり、刺し身用冷凍サバの商品化を考える研究会が発足した。刺し身用冷凍サバを産業化するため、コストや実現可能な生産、流通体制の整備などについて課題を検討する。一大産地の八戸で刺し身食が普及すれば、消費拡大など地域振興につながるとしている。</p>
9	<p>～和食の魅力見直そう～ 市内14小学校で特別給食</p> <p>ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」の良さを見直そうと、12月8日に和食献立の給食が市内14小学校で提供された。市内の和食料理人が考案した特別メニューで、干し菊を散らしたホッキとメカブのうしお汁、豚肉とキャベツのリンゴ風味、サツマイモとこんにやくと大豆のごま酢あえ、ご飯、牛乳の計5品で582キロカロリー。青森県産品を使い、だしや酢を生かした味付けが特徴。子どもたちが和食の魅力に触れた。</p>
10	<p>「はちのへ「ちきゅう」情報館」開館7周年記念式典開催</p> <p>八戸市水産科学館マリエントは、同館で「はちのへ『ちきゅう』情報館」の開館7周年を記念した式典を開いた。情報館は、海洋研究開発機構の協力で、同機構の地球深部探査船「ちきゅう」の活動を紹介しようと2007年に開館。式典では、同年に発足した小中学生が対象の「マリエント『ちきゅう』たんけんクラブ」の会員らが「ちきゅう」ケーキに入刀し、7周年を祝ったほか、新たに発足する高校・大学生が対象の同クラブ・シニアの紹介も同時に行われた。</p>
11	<p>「はっち」プロジェクトでライトアップ</p> <p>八戸ポータルミュージアム「はっち」で、コンピューターグラフィックス(CG)技術を使った映像で建物をライトアップする「3Dプロジェクトマッピング」が12月19～21日に行われた。高さ6メートルのやぐらに設置したプロジェクターから番町側の外壁に投影。イカや八幡馬のからくり時計など八戸にちなんだ素材を盛り込んだほか、8月にははっちで開いた親子ワークショップで、児童が作った紙粘土作品や塗り絵など約50点も登場、まるで壁が生きているかのように、不思議な光景を作り出していた。</p>
12	<p>JR本八戸駅舎改修へ 町屋をイメージして一新</p> <p>JR東日本は、今年1月中旬に本八戸駅の改装工事を始め、7月下旬の完了を目指すを発表した。駅改修は、八戸市による駅通りや内丸地区の街並み整備に合わせる形で行う。改修のイメージは「藩政時代」。木目調と白漆喰を思わせる外壁にし、昔の町屋や商店を意識した格子窓を設ける。内装の詳細は検討中だが、全体的に明るく、ぬくもりのある雰囲気にする予定。本八戸駅は1977年に現在の建物になって以来、大規模な改修は初めてとなる。</p>




13	<p>八戸LNGターミナル披露 市民見学会に150人</p> <p>JX日鉱日石エネルギーが八戸市豊洲のポートアイランドに建設中で、今年4月に稼働する「八戸LNG(液化天然ガス)ターミナル」の初の市民向け施設見学会が12月20日に開かれた。北東北や北海道東へのLNGの供給拠点となるターミナルは、2011年に着工、今年1月には海外からLNGを積んだ第1船が到着し、総合試運転を開始する。市民ら約150人が新たに誕生する市の“ランドマーク”を一足先に楽しんだ。</p>
14	<p>旧レック・旧マルマツビル解体 中心街の再開発着々</p> <p>三日町と六日町にまたがる旧レック・旧マルマツの再開発で、建物の解体が進んでいる。1968年に建設された旧レックは地上5階、地下1階。69年築の旧マルマツは地上3階、地下1階。旧マルマツは2004年、旧レックは07年から空きビルとなっていた。跡地の六日町には江陽閣が4階建て複合ビル、三日町には市がにぎわい拠点施設を整備する。両施設は24時間開放の公共通路でつながる見通し。</p>
15	<p>八戸屋形船 新産業都市指定50周年で新コース運航</p> <p>八戸市の新産業都市指定50周年を記念し、同市のNPO法人「海の八戸NPO」は12月21日、「屋形船工場観光フェリー埠頭方面新コース無料体験乗船会」を開いた。参加した約70人が八戸屋形船「新井田丸」に乗り、海から工業地帯を臨む新コースを楽しんだ。乗り場の湊町本町を出発後に八戸港内を巡り、フェリー埠頭や各工業施設を海から眺めるコースを設定した。新コースは今年から本格運航する。</p>

【文化・スポーツ】

No.	レポート
16	<p>即席麺・小学生レシピコンクール 城北小の西山さんが審査員特別賞受賞!</p> <p>12月13日に東京で開かれた「インスタントラーメン小学生レシピコンクール」に、東北地区大会で最優秀賞を受賞した八戸市立城北小5年の西山緋七さんが出場した。西山さんのレシピは、ゆでた即席麺をつぶして団子状にし、ニンジンやピーマン、パプリカ、タマネギが入ったしょうゆベースのあんをかけ、万能ネギを散らした「ラーメンだんごあんかけ」。西山さんが「肉を使わずヘルシーで、野菜の甘味も楽しめる。」と意気込んで臨んだ作品は、審査員特別賞を受賞した。</p>
17	<p>東北太鼓ジュニアコンクール大会 「あそびっ鼓組“遊”」(八戸市)が優勝!</p> <p>第3回東北太鼓ジュニアコンクールが12月7日、八戸市公会堂で行われ、「あそびっ鼓組“遊”」(八戸市)が優勝した。あそびっ鼓組“遊”は小学1年～中学2年の10人が、ねぶた祭りのはやしをモチーフにした個性的な演奏を披露。躍動感あふれる太鼓に加え、笛や手びらがねを織り交ぜたり、メンバーが元気いっぱいステージで跳ねたりして観客を楽しませた。3月に長野市で行われる全国大会に出場する。</p>
18	<p>第1回全国丼グランプリ みなと食堂の「ヒラメの漬け丼」金賞!</p> <p>インターネット上で実施された「第1回全国丼グランプリ」で、湊町の「みなと食堂」の「ヒラメの漬け丼」が海鮮丼部門の金賞に輝いた。グランプリは今年初めて開催。全国から出品された約1300品の中から主催者が絞り込んだ200品を対象に、ネット上で食べたい丼料理に投票。11部門で金賞を決めた。漬け丼は八戸港で水揚げされたヒラメを低温で熟成、特製のたれを絡めて生卵を載せた一品。ヒラメの繊細な味を損ねないように、注文が入ってから漬けるのがこだわり。店主の守正三さんは「これからもお客さんに満足してもらえるものを提供したい」としている。</p>



19	<p>歌人梅内美華子さん 盲・聾学校でワークショップ ～短歌の面白さ伝授～</p> <p>八戸特派大使を務める八戸市出身の歌人梅内美華子さんによる短歌のワークショップが12月16日、青森県立八戸盲・聾学校で行われ、生徒たちが短歌の面白さを学んだ。八戸市が行う「八戸大使講師派遣事業」の一環で、両校は2011年度から梅内さんを毎年招いており、この2年間は同事業を活用している。この日は中学部の生徒9人が参加。事前に作った短歌を発表し、作品に込めた思いや工夫したところを説明した。終了後、子どもたちは「梅内先生からアドバイスをもらって自信がもてた」などの感想を述べていた。</p>
20	<p>八戸舞台の映画「ライアの祈り」都内で完成記者会見</p> <p>八戸市を舞台にした映画「ライアの祈り」の完成記者会見が12月17日、東京都内で開かれた。映画は恋に臆病な“アラフォー”の主人公と、不器用な考古学者のラブストーリー。会見には主演の鈴木杏樹さんのほか、相手役の宇梶剛士さんから出演者、監督の黒川浩行さん、原作の森沢明夫さんが登場。鈴木さんらが映画に懸ける思いや、撮影中のエピソードなどを披露。今年6月予定の公開に向けて作品をアピールした。</p> 
21	<p>「ライアの祈り」ロケ地マップなど作製 誘客本格化へ</p> <p>八戸舞台の映画「ライアの祈り」の完成を受け、八戸市など地元6団体が構成する製作支援実行委員会は、公開に向けて各種媒体でPRに取り組むほか、ロケ地マップの作製、ロケ地を巡る観光コースの設定を予定。公開前には地元でのイベントも計画している。委員会の大黒裕明会長は「映画の背景となっている街並みは八戸の風景。多くの方に見てもらうことは、八戸の宣伝にもなる。まずは市民の皆さんの関心を高めていきたい」と話している。</p>
22	<p>新「八戸らーめん」お披露目</p> <p>八戸らーめん会は、スープのベースとなるしょうゆを改良した“新”八戸らーめんをお披露目した。しょうゆは正田醤油(群馬県館林市)と高村醤油(八戸市)が共同開発。2社によると、しょうゆに濃縮した煮干しエキスをブレンド。しょうゆ本来のうま味と煮干しの風味が強調され、塩味を和らげる効果も得られた。12月18日に行われた試食会の参加者からは「煮干し味が際立った」「昔懐かしい味」と納得の声が出た。1月10日から加盟店で提供している。</p>
23	<p>「施工現場写真コンテスト」橋本さん(みちのく庭園)が金賞!</p> <p>エクステリア商品卸販売のトコナメエブコス(東京)主催の「施工現場写真コンテスト」で、八戸市の造園会社「みちのく庭園」の橋本卓さんが、応募総数867点の中でトップの金賞に輝いた。金賞の作品は、一般住宅の玄関前に、自然石とコンクリート平板を組み合わせて動線のつながりを表現し、アルミアーチで立体感を演出。石積みと植栽も配置し、近代的な空間の中に和の雰囲気も加えた。橋本さんは今年、庭造りのコンテストで相次いで入賞。「八戸から流行を発信したい」と、さらなるレベルアップを誓っている。</p>

【 県 内 】

No.	レポート
24	<p>「はしかみ蕎麦と岳 満喫バスパック」販売開始</p> <p>八戸階上路線バス利用促進・地域活性化協議会が企画した、路線バスに乗って階上町の名物「そば」と「階上岳」を満喫できるパックの販売が12月25日から始まった。同町のフォレストピア階上で食事やそば打ち体験が割安で楽しめるほか、バス料金が割引になる。食事の前後には、階上岳でのハイキングや、同施設で貸し出している自転車に乗って周辺を散策することもできる。25日には八戸市から8人が訪れ、そば打ち体験を楽しんだ。</p>
25	<p>種差海岸に関するアンケート調査 ～期待するのは海鮮料理～</p> <p>～種差海岸に期待するのは海鮮料理～、八戸地域社会研究会が関東地方、東北地方、八戸市内の住民を対象に実施したアンケートで、こんな実態が浮かんだ。八戸を含め、全ての地域で食に対するニーズが最多で、特に女性の関心が高い。一方、課題とされてきた認知度は依然として低く、種差海岸の東北での知名度は35%。盛岡市で9割が知っていたのに対し、他の3市は1割にとどまった。関東は8割以上が知らなかった。三陸復興国立公園の指定を知っていたのは東北で10%、関東ではわずか5%で、PRの在り方を見直す必要があるようだ。</p>